

大化け前の
関西元気企業

TSUYO-KU

元気



神内 治

Osamu Kamiuchi

今、「^{つよ}元気企業」の時代だ!

関西優良中小企業
102社成功の秘密

現代創造社

大阪ガス株式会社

会 長 **野村 明雄**

疾風に勁草を知る。

企業もまた逆境にあって、その真価が問われます。本書に紹介された、関西の中堅・中小企業102社の“風に向かって立つ”勁き生きざまは、いま懸命に頑張っている企業人、また、これから企業を立ち上げようと挑戦する若い人々に大きな勇気を与えることでしょう。



9784874770689



1920063016000

ISBN978-4-87477-068-9
C0063 ¥1600E

定 価：本体1,600円＋税
発 行：現代創造社

夕刊フジの人気コラム

「神内 治の大化け前の関西中小企業」が 待望の単行本化

これからの大きな成長に向けて、さまざまな創意工夫でビジネスチャンスをつかみ取ろうとする中小企業。彼らのバイタリティあふれるアイデアを取り上げ、今後ますます飛躍を遂げそうな関西中小企業102社を一挙紹介。

「すべての人がハッピーになれるロボットづくりをしたい」と菱田聡社長



菱田伸鉄工業株式会社

◇◇◇
三代続いた伸鉄業から撤退後、
次世代ロボットで再びモノづくりへ
◇◇◇

伸鉄——。スクラップの鉄板を熱間圧延して棒状にしたもの。ブロッタ塀の中に芯として入っているものを思い浮かべるとわかりやすい。

菱田伸鉄工業は一九二〇年創業。戦時中の企業合同を経て、一九五〇年に現社長、菱田聡(46)の祖父が、伸鉄製品の製造販売会社として設立した、伸鉄業界でも老舗の会社だ。

省エネ、低コストで加工できる伸鉄は、かつては産業に欠かせないものだったが、平成以降、代替製品にシェアを奪われ、業界は先細りに。

岡山大学大学院生産機械工学専攻修了後、大手空調メーカーの研究所で制御技術などの研究に携わっていた菱田が、実父(当時社長)の要請で入社したのが九一年。そこから何年も経たないうちに、業界は存亡の危機を迎えた。

「同業者が相次いで撤退。父もいつどうやってやめるかを常に考え

ている状態でした」

フル生産をしても黒字化が難しいという結論に達し、九五年、同社は伸鉄業界から撤退した。その後、残った資産を活用、工場跡地を賃貸物流センターに、社宅を賃貸マンションにして、事業は一転、不動産賃貸業となった。

だが、とりあえず会社を続けていく収入源は確保したとはいえ、菱田の「モノづくりがしたい」という思いは消えない。いろんなセミナーや交流会に参加している中で出会ったのが、次世代ロボット開発に取り組む人たちだった。

「大学、大学院ではロボット技術に近い研究をし、卒業後に入った会社でも、ロボットがやりたくて制御技術に携わっていた」ことも下地にあった。

大阪市が次世代ロボット産業の推進拠点として創設したロボットラボラトリーに入り、ロボット開発の企業ネットワーク「ROOB O（ローボ）」に参画。さらに、現実のニーズや用途に合わせて使えるように、ロボットのシステムをイーजीオーダーする、カスタマイズチームの一員となった。



05年11-12月に行った病院用支援ロボットの実証実験
(写真は入院患者見守り支援ロボット)

○五年秋には、チームのメンバーとともに、病院の玄関に設置し、入院患者の無断外出を防ぐ「見守り支援ロボットシステム」と、管理用パソコンとロボットを無線LANで結び、脳卒中などのリハビリ患者と話しながら脳を活性化する「リハビリ支援ロボットシステム」を開発、実証実験を行った。

実際に現場で動くロボットとして納入する例も出てきている。企業のキャラクターをロボット化、展示物の紹介をしたり、訪問者と簡単な会話を交わしたりするものだ。これがいわば、同社のロボットビジネスの第一号でもある。

「いまはまだ、収入のほとんどは不動産賃貸業です。でも、ゆくゆくはロボットの分野で人を採用できるようにしたい」と話す菱田。しかし、社名にある「伸鉄」の二文字を、当面は捨て去るつもりはないという。

「会社として続いてきた歴史は、決して他の何かに換えられるものではありません。やがてロボットがビジネスの柱になったら？　そうですね、そのときは別会社をつくることになるかもしれません」

本社／堺市西区築港新町2-7-2 ☎072-244-6905
代表者／菱田 聡
設立／1950年8月 資本金／1000万円